

令和4年10月19日

東京ステーションギャラリーの活動について(広報・文化観光)

東京ステーションギャラリー館長 富田 章

1 東京ステーションギャラリーの概要

- ・設置主体 公益財団法人東日本鉄道文化財団
- ・開館 昭和63年開館、平成24年東京駅復元工事後、再開館
- ・展示室面積 約600㎡
- ・活動 年4～5回企画展を実施(収蔵品数は少ない)
近代美術、建築、鉄道、現代アートなど幅広いテーマを対象
- ・体制 館長1名、学芸4名、事務6名
- ・近年の入館者数(コロナ前) 17～18万人／年
事業を継続するなかで館の性格が定着⇒リピーター獲得

2 広報・文化観光活動について

(1) 広報の重要性

- ・専任の広報担当の配置 広報と学芸の連携 ⇒きめ細やかな広報活動が可能に
- ・SNS 発信の有効性 SNS の発信は有効
(狙った発信よりもインフルエンサーによる発信が効果的)

(2) 夜間開館

- ・夜間開館の見直し 当初の開館時間 11:00～20:00
現在 10:00～18:00(金曜日のみ20:00)

(3) 東京駅周辺美術館提携(2010年～、HP「6MUSEUMS.TOKYO」)

- ・参加館 アーティゾン美術館、出光美術館、三井記念美術館、三菱一号館美術館、東京ステーションギャラリー(2013年加入)、静嘉堂@丸の内(2022加入)
- ・目的 6館共同で情報発信を行い、「新しいアートスポット」としての浸透・定着を図る
- ・事業 広報協力、共通券の発売、「アートフェス」の実施など「ゆるい連携」
(※近年はコロナ禍で休止中)

(4) 多言語化対応

- ・多言語イヤホンガイド かつて実施、費用の問題とコロナ禍で中止
- ・スマホ翻訳機能の活用 現在は英訳のみ実施。スマホの翻訳機能の活用